

青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部

青年部広報誌

第39号

令和3年8月18日発行

「逆境をチャンスと捉えて」



山形県建設業協会
鶴岡支部青年部

部長
五十嵐 大輔

令和3年度を迎え、皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より当青年部の活動につきまして、関係各位の皆様からの多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度、鶴岡支部青年部第17代目の部長として昨年度に引き続き大役を仰せつかりました五十嵐大輔でございます。皆様、一年間どうぞ宜しくお願いいたします。さて、昨年度は、未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、我々青年部の活動におきましても様々な制約下での事業展開となりました。コロナ禍との辛い闘いが始まってから一年以上が経過した今も、我々人類は、まだまだコロナウイルスに翻弄され続けていると感じております。

様々な社会活動の中で県内においても

感染された方々が多く存在する状況にあります。このような状況下ではありますが、過去一年間の経験を踏まえ、私たち青年部の積極的な発想と柔軟な行動力で一年間進んで参りたいと考えております。我々青年部の一番の使命は、「夢と未来のある建設業」を創造すべく、将来の地元建設業界の中心で活躍する「担い手の確保」であります。

皆様ご承知のとおり、このコロナ禍にあつて新卒者の進路は、進学・就職を問わず、地元志向が高まっているのは事実でございます。

今春の鶴岡工業高等学校新卒者の進路を例に挙げますと民間企業就職者数123名の内、県内就職77名、県外就職46名と県内就職が実に63%を占めるという結果となりました。昨年の同じ統計結果を見ますと、県内就職者が占める割合が52%に留まっておりましたので、11%の上昇は、飛躍的な数値と言えます。これは、コロナ禍による影響のみではなく、諸先輩方をはじめとする我々青年部の長年の取り組みも少しずつではありますが、結果として実を結んでいるものと自負いたしております。

当青年部恒例の事業として行っている、鶴岡工業高等学校建築科2年生を対象とした高校生建設業就業促進事業「若手技術者との意見交換会」をはじめとする就業促進活動にも更に力を入れて、この国難と言われるコロナ禍の逆境をチャンスと捉えて、新卒者の地元定着率の低下に終止符を打つべく、今年度も担い手確保に向けた様々な取り組みを行い、将来につながる地元建設業界の発展に貢献していく所存でございます。

今年是我が鶴岡支部青年部設立30周年の記念すべき節目の年であります。諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統のある鶴岡支部青年部の節目の年に相応しい活動が、このコロナ禍ではありますが、滞りなく展開していくことができますように私も精一杯リードして参りたいと思っております。

最後になりますが、建設業協会の親会をはじめ、ご支援とご協力をいただいております各関係機関の皆様に対し御礼を申し上げますとともに、コロナ禍の一日も早い終息をご祈念申し上げます。皆様には、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度 高校生建設業 就業促進事業報告



企画政策委員会
委員長 佐藤 義将

この活動は、建設業界における人材不足の背景を基に、若手人材の就業促進・育成を目的として、平成27年度より「若手人材就業促進事業」を実施し、「魅力ある建設業」を広くPRする活動でもあり、青年部の事業活動の中でも力の入れている事業でもあります。

今年度の事業内容としては、鶴岡工業高等学校2年生 36名を対象とした職場体験学習及び意見交換会等を令和2年10月14日に実施しました。

当日は、午前中に現場見学及び測量実習（トータルステーション）を行い、午後からは、『若手業者からのメッセージ』を題材に山形県職員・青年部現役技術者から講話をして頂き、最後に高校生と若手技術者との意見交換会という内容で行いま

した。

測量実習については、4人／班の9班に分かれ、各班に青年部の現役技術者が2名講師として付き添いトータルステーションの据付方法や、計測方法を行いました。

初めて機器を見る生徒もいれば、インターンシップで使ったことがある生徒もいて、青年部員の指導のもと、悪戦苦闘しながら機器をセット・観測を行っている様でした。生徒の方も普段授業で習わない機器を使った測量実習に興味津々の面持ちで取組んでいたのが印象的でした。

就業促進事業を通じて、物づくりの楽しさや、重要性、必要性を発信していき、自分で作り上げる物づくりに対する喜びと誇りを見いだせる仕事だと言う事、魅力ある建設業をもっと次世代へPRして行き、地元建設業の活性化に繋がりたいと思います。

最後に、この事業に対して御協力

頂いた県立鶴岡工業高等学校建築科の皆様をはじめ、山形県庄内総合支庁の皆様、本当にありがとうございました。



令和2年度

河川愛護活動
事業報告地域貢献委員会
委員長 田中 実

今年度も山形県建設業協会鶴岡支部青年部の重点事業である『山形県ふるさとの川愛護活動支援事業』を令和2年10月2日に、鶴岡市友江地内の大山川で実施しました。

例年、6月に実施しておりました本事業ですが、今年はコロナの影響も考慮いたしまして、毎年参加をお伺いしています大山小学校の生徒さんには、毛虫や蜂等の虫被害防止や、コロナ感染防止のためご遠慮頂き、当青年部員のみで感染対策を十分行いながら活動しました。

当日は、青年部員23名で草刈りを行いました。秋晴れで気持ちのいい青空の広がる天気でした。

毎年活動している6月頃と比べ、河川の草木は人の背丈よりも生い茂っている箇所がほとんどの状態で、

草刈り作業にはいつもより時間が多くかかり、体力もかなり消耗しました。

参加したみなさん汗だくでかなり過酷な作業でしたが、川を綺麗にしたいという思いで一心不乱に草刈りを行っていました。草刈りが終わった所は、視界を遮るものが無くなり見晴らしもよくなっていき、気持ちの良いものでした。

普段より安全に対して注意喚起を行っているみなさんでしたので、草木が生い茂って視界の悪い中でも、足元を固めて周囲を丁寧に確認しながら作業を行っていただき、ケガなどもなく無事作業を終えることができました。

これからも安全には十分気を付けて、河川愛護活動に積極的に取り組んでいきたいと思いました。

コロナ禍で、まだまだ大変な時期で地域の方々とのつながりを持つ

が難しくなっていますが、青年部の伝統的な重点事業ですので継続していきたいと思いました。

事業の打合せや段取りに際して、庄内支庁河川砂防課や鶴岡市役所大山小学校、地域自治会の皆様方には、大変お世話になりました。

これからは、小学生の方々も参加

できるよう、害虫対策や活動内容も視野に入れながら、この活動を継続出来ればと思います。

最後に、本年度も河川愛護活動にご協力いただきまして、ありがとうございます。

今後とも指導のほど、よろしくお願いいたします。



令和2年度

高校生現場見学会 事業報告



企画政策委員会
副委員長 佐藤 友介

令和2年度も山形県建設業協会鶴岡支部青年部の重点活動事業である「高校生現場見学会」を9月9日に実施しました。

本事業は、将来における建設人材確保育成を目的とした継続事業であります。県立鶴岡工業高等学校建築科1年生を対象に、日頃の授業や実習では学べない実際の工事現場を見学することで、建設に関する学習意欲の醸成や進路ほか就職に役立つ機会を創出する場でもあります。生徒40名のほか、教師、協会支部、青年部合わせ総勢67名が参加し以下の3つの現場を新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し見学させていただきました。

1 鶴岡市屋内多目的運動施設整備工事
(マルゴ・十和・三浦特定JV)

2 デイセンターじゃがいも新築工事
(佐藤工務)

3 国道7号 大岩川トンネル工事
(奥村組)

現場見学会を通して、工事概要や工種説明を真剣に聞いている、学んでいる高校生の姿が特に印象的でした。また、質疑応答では高校生より多くの発言が有り、完成に至るまでの必要職人数や事業費など完成までのイメージを掴む積極性を感じることができました。そして、高校生が学ぶだけではなく、教える側のわたりたちも人材育成の重要性や建設業の魅力を再確認できる貴重な機会となりました。この先も建設業界に興味を抱き、できれば従事していただき、大きな達成感を体感してほしいと願うばかりです。

最後に、当事業に対しましてご協力いただきました県立鶴岡工業高等学校建築科の皆様、お忙しい中、現

場見学と学びの機会をご提供いただきました国土交通省様、関係会社様並びに各現場担当者の皆様と多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございます。今後とも引き続き、当事業に関しましても変わらぬご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。そして、企画していただきました鶴岡支部青年部の役員並びに部員の皆様、ありがとうございました。



アンケート結果について

1. あなたの進路について

☆就職ですか進学ですか（回答数：40） **グラフ①**

●就職 23名（57.5%） ●進学 12名（30.0%） ●未定 5名（12.5%）

☆就職は県内・県外どちらを希望しますか（回答数：23） **グラフ②**

●県内 16名（69.6%） ●県外 7名（30.4%） ●未定 0名（0%）

☆どんな職業を希望しますか（回答数：23） **グラフ③**

●建設業 21名（91.3%） ●建設業以外の会社員 0名（0%）
●公務員 2名（8.7%） ●その他（未定） 0名（0%）

2. 建設業についてどんなイメージを持っていますか

☆建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか。（回答数：40名） **グラフ④**

●そう思う 40名（100%） ●そう思わない 0名（0%）

☆建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか（回答数：40名）

●そう思う 40名（100%） ●そう思わない 0名（0%）

グラフ⑤

3. 高校生現場見学会について

☆今回の高校生現場見学会は進路の参考になりましたか。（回答数：40名） **グラフ⑥**

●参考になった 40名（100%） ●参考にならなかった 0名（0%）

4. 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいですか

●給与 21名 ●勤務時間 26名 ●休日 23名 ●福利厚生施設 5名 **グラフ⑦**
●仕事の内容 32名 ●仕事に必要な資格 28名 ●その他 0名

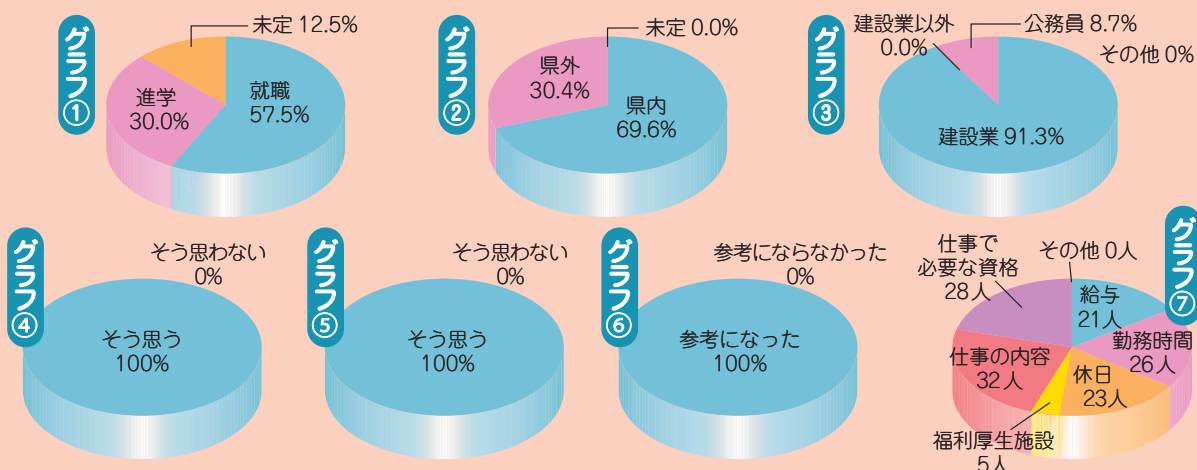
5. 現場見学会を終えての感想・要望

感想

- 工事の現場では、多くの企業が共同で作業しているのは知らなかった。
- 暑い中や、寒い中での長袖での作業は大変そうだった。
- 木造の構造物はとても温かみが感じられた。
- 普段見ることができないトンネル工事を見学し貴重な体験ができた。
- トンネル工事にダイナマイトが使われているのは知らなかった。

要望

- 安全具の着用体験などもしてみたい。
- 大工、宮大工の仕事に必要な資格も知りたい。



令和2年度

鶴岡公園ボランティア活動事業報告



地域貢献委員会
副委員長 佐藤 直

毎年実施している「鶴岡公園ボランティア活動」を今年は、7月22日に実施しました。今年で、第18回目となる青年部としても長く活動を行っている事業です。

鶴岡市都市計画課と鶴岡市支部青年部にて打合せをし、地元高校の鶴岡工業高校、鶴岡中央高校の生徒と鶴岡公園の美化活動を行う事業です。

しかし、今年は今までにない新型のコロナ感染症が蔓延し、世界規模での大流行となつてしまいました。そのため、高校生と一緒に活動は、安全性の確保を第一と考え、今年は見送ることとなりました。

当日は、青年部28名、協会支部1名の参加のもと、鶴岡市都市計画課 公園緑地係の職員の方々と一緒に、菖蒲園池の浚渫作業を行いました。

小型重機も2台投入し、2班に分かれて一輪車で土砂を人力運搬する作業となりましたが、土砂の量も想像以上に大量

に堆積しており、運搬するのも大変な作業でしたができる限り運搬しようと思んなでがんばりました。天気にも恵まれて、各自熱中症にならないように、水分補給、休憩をこまめに取りながらの作業となりました。日頃から事故、ケガなどに注意して、仕事をしているみなさんです。ケガなどもなく終えることができました。

例年行っている鶴岡公園ボランティア活動は、鶴岡市のシンボルとなる公園で、歴史的にも鶴ヶ岡城があった観光名所の鶴岡公園を鶴岡市役所と建設業協会青年部、地元高校生が協力しながら行う小さいながら官と民の連携によりなりたっている事業です。今年は、高校生と一緒に活動できませんでした。青年部としても20年近く継続してきた大切な事業の一つとして、これからも継続し地域に貢献していきたいと思えます。

最後に活動に対して事前の準備から当日のご指導までご協力いただきました鶴岡市都市計画課の職員の方々はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。これからも、引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。

令和2年度

総務交流委員会事業報告



総務交流委員会
委員長 佐藤 勝隆

今年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言や感染拡大予防、新生活様式の導入により2月の臨時総会しか行うことができませんでした。2月の時点で山形県は感染者がおらず、緊急事態宣言の発令前だったために3密の回避と感染症対策を徹底し開催することができました。臨時総会では、基本方針や重点事業等について部員同士が直接顔を合わせて1年間の活動を振り返ることができ、大変有意義な時間を設けることができました。

年間を通して様々な会を企画することで交流の場を作り、同じ建設業に従事する部員同志の親睦を深め互いに学びあう役割を担う総務交流委員会としては、任務を果たすことができず大変残念な1年となってしまいました。そ

れでも、各会の開催について検討することや新型コロナウイルス禍でできることを委員会メンバーと模索することは、多くの学びもありました。部長をはじめ助言をいただいた皆様、各会の中止の決定を受け入れてくれた部員の皆様に感謝いたします。どうもありがとうございました。



令和2年度 卒業の言葉

青年部を卒業するにあたり



有賀建設㈱

菅原 武士

平成17年に入会させて頂き、16年間青年部でお世話になりました。入会した当時は、建設投資は落込み公共工事は悪などと言われ、業界の流れは異業種へと進み始めるところでした。しかし、東日本大震災を経験しインフラ整備の重要性や担い手確保といった新たな課題が出てきた16年間だったと思います。

入会当初は、どんな人がいるのかどんな事をするのか全く分からずただ不安でしかたありませんでしたが、諸先輩方に声を掛けていただき充実した青年部活動でした。4月の総会から始まり河川愛護活動や高校生現場見学・研修視察など数多くの事業がありました。また、入会時に自分が部長を務めることになるとは1mmも思いませんでした。が、どれも自分には良い経験となっておりま。そして、青年

部でなければ他社の技術者や経営者方とも知り合うことが出来なかったし、そこで出会った仲間には自分にとって一番の財産になっています。

今後も青年部には、若い力と発想力・行動力をもって地域社会に建設業の魅力・やりがい・無くてはならない必要性を、未来を担う若者に発信し続けてほしいです。

最後に、鶴岡支部青年部の更なる活躍を期待しております。長い間本当にありがとうございました。

卒業にあたり



㈱浅賀建設

佐藤 敬

平成26年に入部以来、7年間建設業協会青年部で活動させていただきましたこと、また沢山の方々と出会い、そしてご指導ご鞭撻をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

入部当初を思い起こすと右も左もわからず、また同業とはいえほぼ交流がなかったため、とても不安で緊張しながら活動していたことを今でも鮮明に覚えています。

しかし、いざ活動へ参加させていただくと先輩部員の方々が分け隔てなく優しく接してくださり様々な活動を通して楽しく参加させていただくことが出来ました。

青年部の活動を通して、通常業務では得ることの出来ない貴重な経験をさせて頂きました。

鶴岡公園整備ボランティア活動や河川アダプト、高校生対象

の就職促進事業、高校生建設工事現場見学会などこれからの鶴岡の建設業の発展とこれから業界を担っていく我々にとって欠かすことの出来ない意義深いものだと思います。また、活動を通して部員の皆様や様々な方々と交流する事で自分自身のスキルアップにも繋がったと思います。

今後も沢山のことを学ばせていただいた部員の一人として、そして企業の一員として建設業の魅力、必要性を次の世代に伝えていき、鶴岡の建設業を盛り上げていきたいと思っています。

最後になりますが、鶴岡支部青年部の今後益々のご発展と部員皆様方のご活躍を心より期待して卒業の言葉といたします。7年間ありがとうございました。



卒業にあたり



笠原建設工業㈱

佐藤 慎也

令和元年度より入会させて頂き、2年間という短い期間ではありましたが、青年部の一員として活動させて頂きこの度任期を向かえ卒業する事となりました。

入部当初は何もわからず不安な気持ちでおりましたが、部員の皆様全員が温かく迎えてくださり、親切に、気さくに接してくださったため直ぐに溶け込むことができ、期間中は楽しく活動に参加する事ができました。

活動内容も、地元建設業の発展のための活動、スキルアップのための活動、地域貢献活動と内容の濃い活動ばかりで、達成感と幸福感が得られる大変貴重な経験となりました。また、部員の皆様の活動に取り組む姿勢につきましても、役員の方々をはじめ、部員が一致団結し、目的を達成するために楽しみながら真剣に活動しておられ、自身も

その一員として活動させて頂く事で、今後の仕事や人に接する姿勢についても大変勉強になりました。大きな糧とすることができました。

最後になりますが、2年間という短い任期の中で、昨年は新型コロナウイルスの影響で、活動内容を制限せざるを得ない状況となってしまった事も重なり、自身が青年部に十分貢献できたのかという点が気がかりではありますが、青年部の皆様におかれましては、今後も健康には十分注意して、益々の発展とご活躍を祈念して卒業の言葉とさせて頂きます。大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



令和3年度 入部の言葉

青年部への入部にあたって



㈱浅賀建設

浅賀 大輝

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部へ入部させていただくことになりました。株式会社浅賀建設の浅賀大輝と申します。建設業に従事してようやく3年が経過しましたが、まだまだ経験不足でありますので皆様方よりご指導頂戴できればと思います。よろしくお願いします。

地元鶴岡で生まれ育ち、高校卒業後は学生時代を東京で、就職後は村上市、新潟市、米沢市と15年ほど地元を離れて暮らしていました。久しぶりに鶴岡に戻り感じたことは、「やっぱり鶴岡は最高だなあ」という思いでした。たくさんの魅力が溢れる鶴岡市ですが、人口減少に歯止めがかからず多くの若者が地元を離れていく現状に、私も地元のために力になりたいという思いを持っています。

青年部の活動として、建設業の魅力発信、担い手確保、社会貢献など様々な地域のための活動を行っていることを認識しております。地域の発展なくして企業の発展なし、青年部での活動を通して地元を盛り上げ、地域発展の一助になればと思います。

青年部入部にあたってのご挨拶



笠原建設工業㈱

矢口 利彦

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させて頂く事になりました。笠原建設工業株式会社の矢口利彦と申します。私は高等学校を卒業して以来、当社で主に建築工事に従事してきました。これまでは、他社の方々と一緒に働く機会が少なかったのですが、今年度より青年部の一員とさせて頂き、他社の世代の近い皆様方とともに様々な活動や交流を行えることを楽しみにしております。その一方で具体的な青年部の活動内容については理解できていない面も多く、皆様方の足を引っ張る事にならないかとの不安もあります。積極的に活動に参加させて頂きながら少しでも早く力になりたいと考えております。そして地元建設業や地域の発展に微力ながら貢献したいと思っております。まだ何も分かりませんが、皆様どうぞ御指導宜しく願っています。

青年部入部の言葉



有賀建設㈱

河野 浩生

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部に入部させて頂くことになりました。有賀建設株式会社の河野浩生と申します。

私は鶴岡工業高校建築システム科を卒業後、弊社で8年間主に土木工事に携わってきました。様々な工事を行うなかで多くの方と交流し、以前には自分が担当した工事で青年部主催の高校生現場見学会でお世話になりました。今後は青年部の活動を通して地域貢献や技術研修に積極的に参加し自身の見聞を広めていきたいと思っています。

青年部に入部するにあたり自身も高校在学中の現場見学会で間近に現場に触れ建設業の職に就くきっかけが出来たことを今でも覚えております。コロナ禍のおり人との交流が難しい時代ではありますが日々の活動に精一杯取り組みたいと思います。分からない事が多々あると思いますので、先輩の皆様のご指導・ご鞭撻をどうぞよろしく願っています。





現場紹介

鶴岡市ごみ焼却施設整備・
運営事業建設工事



佐藤工務・鶴岡建設
特定建設工事共同企業体

(株)佐藤工務

現場代理人

加藤 裕之

本事業は、既存のごみ焼却施設の老朽化に伴う新たな施設を建設するもので、施設の設計・建設・運営を一括して行う公設民営のDBO (Design-Build-Operate) 方式を鶴岡市が初めて導入した事業です。工事概要は、S造・RC造・SRC造からなる混構造で、地上5階、地下1階、最高高さ58m、ごみピット深さ15m、工期が2018・4・1～2021・3・31迄の非常に工期の厳しい、また、難易度の高い工事となりました。

その中で懸念された「①残置杭の引抜き ②山留工法」について当工事で採用した工法等をご紹介します。

①残置杭の引抜き

残置杭の引抜きには様々な問題があり、大きく影響を及ぼす2つの問題がありました。1つは途中で杭が折れ地中に残置する恐れがあり新規杭との干渉の問題。二つ目は杭引抜き後に杭孔が崩落し不完全な注入で周辺地盤の沈下の問題で



す。今回の工事は、旧し尿施設の埋設構造物を解体した跡地に新しい施設を建設する計画で、確実に残置杭を引抜き、また、杭孔を適切に埋戻しをする事が必要とされました。数ある既存杭撤去の工法の中で2つの問題を解決出来るPG工法を採用しました。PG工法の特徴は杭周辺をケーシングで包み込むように掘削して、杭先端をキャッチングして中間で折れた杭でも確実に撤去できる工法です。さらにPG工法は杭引上げと同時に充填材も注入でき空隙のできない工法で、次工程を問題なく進めることが出来ました。

②山留工法

工期を短縮するためにクリティカルパスであるごみピットを如何に早く、そして効率よく進める事に着目し、課題として取り組みました。ごみピットの掘削深度は19m程あり、また近くに一級河川の赤川が流れており地下水位が高い事から、山留めの連壁はECW

工法を採用し、H鋼とソイルセメントで構成しました。また、一般的な切梁工法ではなくオープン掘削可能なスピリッツアンカー工法とし掘削スピードを確保する事が出来ました。その他にごみピットの止水が懸念されましたが、ディープウェルの設置、マスコンクリートの温度応力解析、打継ぎの止水処理を十分検討した上で山留めの連壁を外型枠として利用し外足場、埋戻し等の工程の削減で工程短縮を図る事が出来ました。

最後にこの工事を通して通常経験する事のない貴重な体験ができ、この事業の一員として携われたこと、また、工事関係者・施工協力業者の皆様方のご協力の元、無事完成出来たことに感謝申し上げます。

この工事で培った経験・スキルを次の工事で生かし、地域社会の発展に貢献できるように努めていきます。

(株)	(株)	(株)	(株)	(有)	(株)	(株)	十	鶴	田	(株)	(株)	(株)	(株)	菅	菅	(株)	(株)	佐	(株)	佐	(株)	(株)	笠	小	(株)	(株)	(株)	有	(株)
山	山	三	丸	日本	ナ	土	和	岡	川	大	石	鈴	菅	原	睦	菅	佐	藤	佐	竹	工	狩	原	野	王	伊	安	賀	浅
田	口	浦	元	海重	力	岐	建	建	砂	大	庄	木	原	建	建	興	藤	建	藤	建	藤	川	建	寺	祇	藤	建	賀	賀
工	工	土	建	機	ム	工	設	設	利	業	建	工	工	設	設	業	工	設	設	設	建	佐	設	建	建	建	建	建	建
務	務	建	設	建	ウ	店	(株)	(株)	(株)	栄	設	店	店	(株)	(株)	業	務	(株)	組	(株)	設	組	(株)	(株)	設	組	設	(株)	設
店	店	建	設	設		店	(株)	(株)	(株)		店	店	店	(株)	(株)	業	務	(株)	組	(株)	設	組	(株)	(株)	設	組	設	(株)	設
山	池	佐	佐	佐	栗	土	菅	渡	佐	富	佐	阿	佐	佐	安	菅	佐	佐	渡	榎	上	田	矢	五	斎	吉	板	河	浅
田	田	々	藤	木	本	岐	原	部	藤	榎	藤	部	藤	藤	藤		藤	藤	部	木	林	中	口	十	藤	田	垣	野	賀
和		純	勝		正		武		吉	和	潤		将	健	友	義		晴	広		利	大	直		敬	浩	大		
博	章	直	一	隆	司	行	元	修	蔵	徹	史	弥	一	涉	士	太	介	将	剛	紀	伸	実	彦	輔	樹	剛	郎	生	輝

會員名簿一覽30社